

丸山はるみ いきいき通信 No.2



道政報告
2023年7月号



丸山道議 -初質問-

「老朽化した母子生活支援施設」 道として出来ることがあるはず

6月7日に開催された「子ども政策調査特別委員会」で、丸山はるみ議員は「母子生活支援施設」の老朽化対策・機能強化について質問しました。

母子生活支援施設では児童福祉法に基づく施設で、母子家庭やDV被害を受けた女性が子どもと一緒に利用し、自立に向けて生活することができます。

丸山道議の「近年ではDV被害や虐待を受けた児童の入所もあり、施設の意義と役割はより増しているのではないか」との質問に、道は「困難を抱えた母子世帯を支援するために重要な施設と認識している」とその重要性を認めました。

との質問に、道は「困難を抱えた母子世帯を支援するために重要な施設と認識している」とその重要性を認めました。

丸山道議は 道の所管である小樽市の施設（1942年建設）の老朽化について小樽市議時代に調査しており「冬は廊下の窓から雪が吹き込み、部屋の仕切りの引き戸も閉まらなくなる」と告発。「道はこうした実態を把握しているのか」と迫りました。

施設の建て替え等に利用できる補助金は、その4分の1が事業者の負担となるため対応が遅れ、存在が危ぶまれる状況です。丸山道議は「主たる取り組みを施設設置者



「子ども政策調査特別委員会」で質問する丸山はるみ道議会議員

に求め、道自身が積極的に関与してこなかった姿勢を是正すべきだ」と迫り、施設機能強化や持続可能な施設運営など「道としてあるべき姿をまとめ、計画に反映すべきだ」と求めました。森みどり子育て支援強化課長は「困難な状況にある母子家庭も増えてきており、安心して自立した生活が送れるように既存事業の効果検証と見直しを実施する」と答弁しました。

最賃引き上げ申入れ「生活できる最賃に早く!!!」

物価高騰〜暮らしに追いつかない賃金は引き上げを



道労働局に要請する丸山道議（右端）と真下道議（後列左端）ら

丸山はるみ道議会議員は6月19日、真下紀子道議団長、日本共産党北海道委員会、はたやま和也元衆議院議員、池田由美札幌市議団長とともに北海道労働局と北海道地方最低賃金審議会に最低賃金の引き上げを求めて要請しました。毎年の審議会に合わせ、この時期に行っている要請で

「最低賃金を時間給1500円に引き上げる」「全国一律制度にする」「中小企業や赤字企業を含め賃金を引き上げられる環境を整える」ことなどを求めました。東京都と北海道の20年間の比較で、格差は広がっており、現行の制度では地域別で格差が広がるという問題を指摘し改善を求めました。労働局側から、格差をなくしていくために「ランク制度」が見直されたと報告があり「法改正問題もあり、全国一律というのはすぐには難しい」との認識も示されました。

「引き上げの取組を早めて」丸山道議が強く求める

丸山道議は、非正規雇用の広がりや若い人の生活が成り立たず、ダブルワークを強いられる実態を告発し、「現状の最賃では暮らせない。緊急の引き上げを」と強く求めました。

子ども医療費を高校卒業まで無料に！



北海道ネットワークの皆さんと意見交換する丸山（後列右）・真下両道議（後列左）

6月16日、子ども医療費無料化を求める北海道ネットワークの皆さんが鈴木直道道知事に高校卒業までの子ども医療費無料制度の拡充を求め要請しました。要請事項実現に向け日本共産党道議団への協力要請も行われ、情報を共有するとともに意見交換が行われました。



「高等養護学校・酪農経営」道議団道内視察

日本共産党道議団は6月12日から14日にかけて、帯広市、中札内村、土幌町、鹿追町を訪れ、特別支援学校の実態や飼料・肥料の高騰等の環境下にある酪農経営の現状や家畜の糞尿等を活用したバイオマス発電等について視察しました。



中札内高等養護学校で実習を見学する
真下・丸山（後列中央）両道議ら

老朽化対策急いで 特別支援学校を視察

帯広市、中札内村では特別支援教育の実態について調査をしました。特別支援教育の児童生徒が増加する一方で学校の施設整備は進んでいません。帯広養護学校では2015年に訪れた際には壁が落ちた天井から雨漏りがして、すぐには修繕が行われていなかった部分がこのたびの調査では改善されてきました。しかし、寄宿舎の畳は予算不足で張り替えが出来ず給食室の狭隘化に必要な給食が提供できていない実態もわかりました。中札内高等養護学校の築41年を迎えた校舎では雨漏りに悩まされています。寄宿舎は4人部屋でプライベート空間はカーテン一枚で隔てられているだけ。車椅子を利用する生徒のためのバリアフリー対策も十分進んでおらず、校舎と寄宿舎の老朽化対策は急務です。LGBTQの生徒さんへの対応等課題は山積みです。

道議団は「思春期の生徒が暮らす寄宿舎のプライベート空間は自立にとっても必要」。障害者差別解消法で規定する「障害に対する合理的配慮」が教育現場でも求められているが「施設整備が追いついていない現状を変えていくことが必要」と確認し合いました。

酪農継続への実効ある支援を

土幌町川口牧場を訪れた視察団は、飼料・肥料高騰、需要減、雄子牛の価格低落などで酪農経営が極めて厳しい現状を目の当たりにしました。牛の糞尿を活用したバイオマス発電の他、圧搾した糞尿を発酵させて敷き藁に再利用し、液肥は減肥のための自給肥料にと、資源循環型の取り組みを進めるも、経営は厳しいままです。



川口牧場を視察する
真下・丸山両道議

バイオマスガスは電気だけでなく高級マンゴーも作り出す

鹿追町では、家畜の糞尿や生ごみといったバイオマスを発酵させ、発生するガス（バイオガス）を利用して電気や熱エネルギーをつくる鹿追町環境保全センターを視察しました。

一日の発電量は約6000kWh/日、一般家庭600戸分の電気使用量に相当します。また、発電で得られる熱エネルギーを活用し、チョウザメの養殖やさつまいも、マンゴーを栽培。季節をずらして11月から収穫できるマンゴーの価格は5万円にも。今、花が咲く前の手入れの日々が続いています。



マンゴー栽培の様子を見学する
真下（右）・丸山（中央）両道議

「明るい会」と道政懇談会で交流

党道議団は6月16日「北海道の明るい革新道政をつくる会」と道政についての懇談会を行いました。

会のメンバーから道民生活にかかる各分野の課題が報告されました。「子どもの医療費や給食費の無償化は自治体レベルで実施するよう風穴を開けて」「5月1日時点で全道70人近くの教員が未配置となっており、本来は担任業務をしない教頭が担任を受け持つなど人材不足が深刻。道には手だてや予算措置を求めたい」。丸山はるみ道議は各分野の報告も視野に議会に臨む決意を述べました。



2023年第二回定例会招集日に道庁前で宣伝する丸山はるみ道議（手前）

お困りごと相談お受けします

- 月曜日～金曜日
- 午前9時30分～午後3時30分



丸山はるみ事務所

小樽市稲穂1-12-205
ステーションハイツ

☎64-5591 FAX64-5592